

12月豊川市議会傍聴記

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

■女性視点の災害対策
東日本大震災から5年。今年も災害が相次ぐ中で女性視点での災害対策や避難所運営を強調したのは井川郁恵氏(公明)。

防災対策監は、広報9月号での特集「女性目線の避難所運営を考えよう」を中心に、きめ細かい取り組み状況を答弁したが、井川氏自身が被災地を歩き、現場の女性の生の声から問題提起で組み立ててほしいテーマだった。

■公契約条例
堀内重佳氏(とよ

財産管理監は適正な入札及び契約の実施、労働者の環境整備、地元企業の安定した経営環境の整備の3点が課題であるとし、基本方針を策定し条例化に取り組みとした。
堀内氏は理事者側の先進地への視察から質問を始めたが、議員自ら視察して、同条例制定の経過と効果から議論を展開

して欲しかった。

■御油の松並木

平松八郎氏(同)は、豊川市にとってかけがえのない歴史的文化遺産である、御油の松並木の保全と活用について問題提起した。
教育部長は並木保護の取り組みから松

■暫定用途地域

神谷謙太郎氏(同)は少子高齢化・人口減少の対応策としてのコンパクトシティへの取り組みが平尾地区で行われていることから、その取り組みについて質問した。
建設部長は「そのネックとなるのは暫定

請した。

■文化芸術創造プ

豊川市の文化政策の現状と課題について質問したのは星川博文氏(同)。

■密集市街地

柴田輝明氏(同)は策定中の「都市計画マスタープラン」について、特に防災の視点から牛久保地区における密集市街地整備事業について取り上げた。

■多忙化解消

柴田訓成氏(公明)は教職員の多忙化解消について質問した。
教育長は「昨年度の豊川市の小中学校

まちづくりへ、活発な議論

並木の総本数は300本を越え立ち枯れ本数が減少傾向にあると答弁し、平松氏は愛護会との協働による高継樹育成や並木の管理が市に一元化されたなどの取り組みを評価し、並木敷の遊歩道化などに期待した。

用途地域であり、その解消のためには条件が緩和され、長期的整備計画により都市計画決定がなされれば可能になったことが明かされた。
神谷氏は平尾地区での取り組みが、他地域へも展開され定住促進になるよう要

文化市民部長は「文化芸術創造プラン」に基づき取り組み内容を順次答弁し、山積する課題を大局的に捉え、先見性を持った文化政策人材の育成が喫緊の課題とした。
今後はゼロ歳児や子育て世代を対象に

した取り組みや、福祉分野との連携が必須になると方向性も示した。
星川氏は、政策ビジョンに生かす取り組みも議論したが、よく整理されていた。

区の地域力を背景にした積極性を評価し、特に「防災まち歩きマップ」は地域防災力の向上につながっているとした。
今後は豊橋技科大やNPO法人のサポート体制から、コンサルタントの活用などで横断的なサポート体制で取り組んでいくとした。

柴田氏は今後の方向性について論じたが、「まちづくりは一日にしてならず」の感を強くした質問だった。
柴田氏はその解消策として「公務支援システム」についても議論したが、使いこなせなければ混乱が生じるだけであり、決め手になるかどうか今後注目したい。